

概算事業費及び事業スケジュール等について

令和3年11月
高知県、（公財）エコサイクル高知

(1) 施設本体工事に係るコスト縮減について

- 本年4月時点の基本設計の内容に基づき算定した施設本体の概算工事費は約93.5億円となった。
- その後、実施設計において、施設の安全性をしっかりと確保することを大前提としながら、コスト縮減に向け、下記の見直しを実施し、約79.6億円までコスト縮減（▲13.9億円）を図った。

(ア) 被覆施設 ▲9.7億円

- 被覆施設の使用材料の見直し ▲14.3億円
⇒ 壁材、鋼材への塗装方法等について見直し
- 仮設計画等の施工計画の検討 +8.0億円
⇒ 現場条件にあった建方計画を立案
- 被覆施設の屋根へのトップライト設置の取り止め ▲3.4億円
⇒ 冬季などの日没の早い時期における周囲への光の漏れも考慮し、トップライト（明かり採り）を取り止め

(イ) 水処理施設 ▲4.7億円

- 水処理施設処理能力の見直し
⇒ 1日あたりの処理能力を47m³から33m³に見直し、施設規模の縮小を図った

(ウ) その他 +0.5億円

- 河川管理者との協議に基づく防災調整池の規模の見直し +2.0億円
- 各工種の工法、構造の精査による数量等の見直し ▲0.5億円
- 管理棟の内装等の仕様見直し ▲1.0億円

(2) 概算総事業費について

○ 今回の施設整備に要する概算総事業費は、約99.9億円と見込んでいる。

	費用 (億円)	内訳
工事費	88.9	● 施設 : 79.6 ● 工事用道路 : 2.2 ● 進入道路 : 7.1
測量及び試験費	8.2	● 設計、地質調査、測量等 : 7.2 ● 施工監理 : 1.0
その他	1.2	● 施設への電力、水道引き込みに係る費用 : 0.8 ● 人件費等 : 0.4
用地補償費	1.6	
合計	99.9	

(3) 今後の事業スケジュールについて

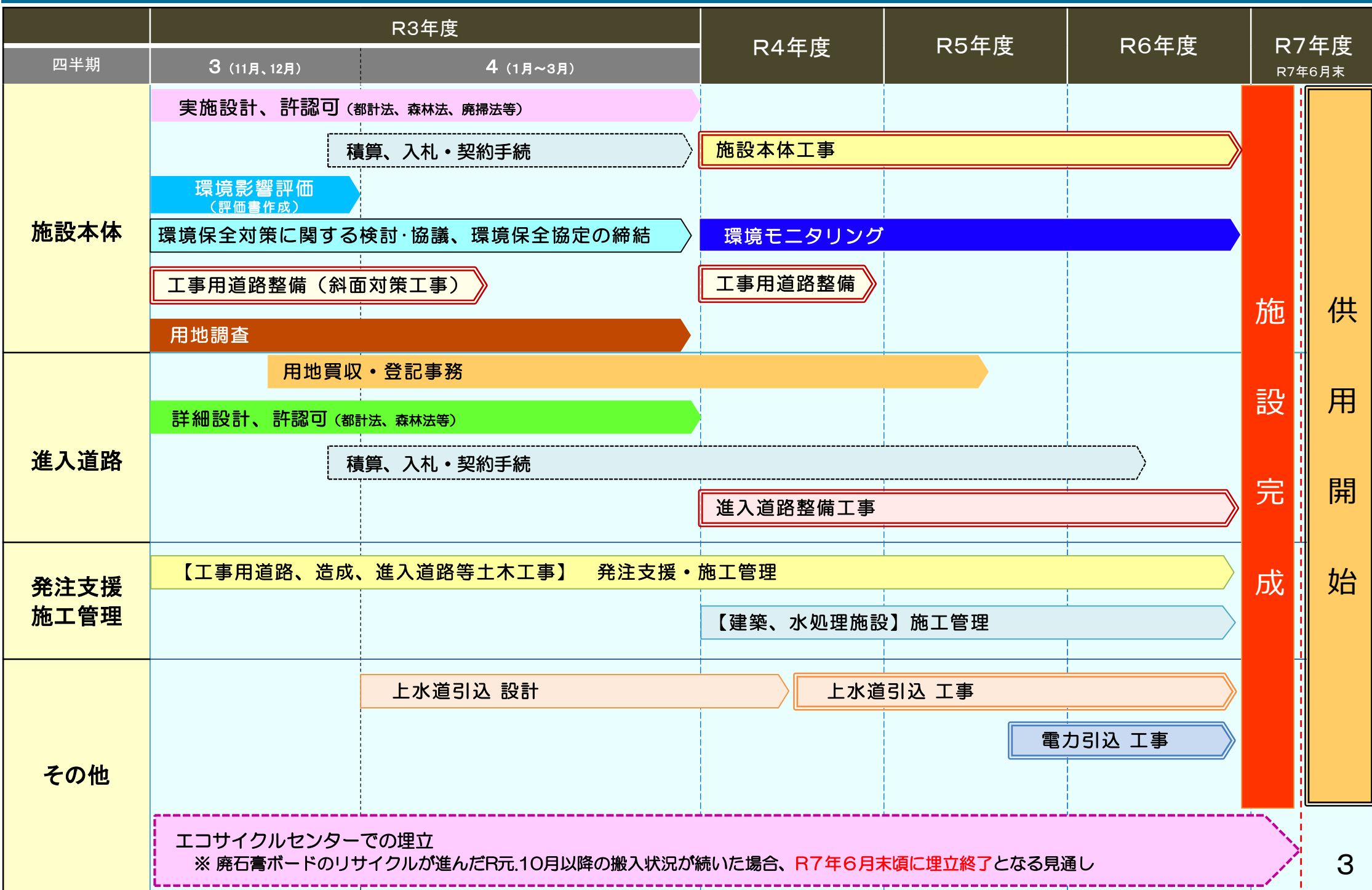
○ 本処分場の整備に必要な工事期間は約3年間を見込んでいる。

○ 他方、現行施設（エコサイクルセンター）の埋立終了時期は、廃石膏ボードのリサイクルが進展した令和元年10月以降の埋立状況が今後も続くとした場合、令和7年6月末と見込まれる。

○ 今後、実施設計に基づき、積算等を行ったうえで、今年度第4四半期に入札手続きを実施し、今年度末までの着工を目指している。
＜現時点のスケジュール 次ページ参照＞

新たな管理型最終処分場の整備に向けた今後のスケジュールについて

R3年11月時点



(4) 工事発注に係る発注方式について

- **新処分場の整備にあたっては**、現行施設の埋立終了時期までの完成（工期の短縮）や工事費の縮減が必須であり、施工条件等を踏まえ、**土木工事・被覆施設工事・水処理施設工事を合わせた「一括発注方式」**を採用することとしたい。
（平成23年度以降、他県の公共関与による管理型最終処分場（クローズド型）の全てがこの方式を採用）

【新処分場整備で採用する発注方式】

	発注区分	発注方式
工事の発注形態	I 土木工事 貯留構造物 造成工事	<p style="text-align: center;">【一括発注方式】</p> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p>JVの構成イメージ</p> <p>①代表構成員：県外ゼネコン</p> <p>②その他構成員（1）：水処理メーカー （機械器具設置工事）</p> <p>③その他構成員（2）：県内土木一式A級</p> <p>④その他構成員（3）：県内建築一式A級</p> </div> <p>※進入道路については、一部区間を除き、県内業者に別途発注</p>
	II 被覆施設工事	
	III 水処理施設工事	
	IV 管理棟工事	

- ① 代表構成員は、発注区分 I ～ III の総合調整を行う必要があり、その資格のある被覆型最終処分場の施工実績を有する事業者は、県外ゼネコンのみ。
- ② 水処理施設の不具合発生時等に発注者が水処理メーカーと直接やり取りでき、迅速な対応を可能とするため、水処理メーカーをJV構成員（元請）とする。
- ③④ 県内業者の受注機会を可能な限り確保するため、県内土木一式A等級、建築一式A等級上位の各1社をJV構成員（元請）として参入させる。